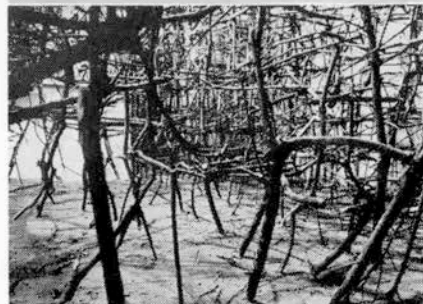
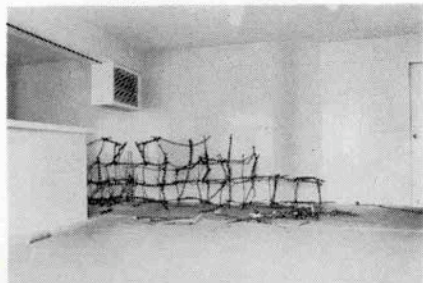


随 想



堀尾貞治展より「ギャラリーキタノサカスにて」

詩的遊歩道

北野町の雅気

福野 輝郎

△ギャラリーキタノサカス△

北野町もこの二、三年で随分と変った。わたし自身ここにやって来て三年に充たないのだからあまりえらそうなこともいえないが、そのころでさえ、できたばかりのキングスコートさんがボツンと所在なげにあるだけで、あたりはまだ静かなものであった。瀟洒なレ

ストランも一軒や二軒あることにはあったが、小さな扉を営業中もかく閉ざして、とても通りすがりの散歩客が気軽に入れるといった雰囲気もなかった。ただ工事が始まっていたローズガーデンさんがいまから思えばそれとなく北野町のその後を暗示していたといえ

ばいえた。そういうところに現代美術のギャラリーを開くことは一種の酔狂であったのかも知れないが、わたしとしては、静かな北野町で最前衛の、しかも当代一級の現代美術を公開するという取合せの妙にむしろ興味をおぼえていた。とにかくそれほどのんびりした場所であったわけである。

ところが降って湧いたようなNHKの「風見鶏」の放映があり、

時ならぬ異常なまでの異人館ブームがそれからの北野町を襲った。深く静かに進行するはずであった北野町の変貌のプログラムに、それは多少とも痛しかゆしの側面をもっていた。ギャラリーにやって来た人々は、引きもきらない団体客の行進を窓越しに眺めて一様にアッケにとられていく風だった。しばらくそんな毎日が続いた。苦笑にも疲れたころテレビも終り、さすがの団体さんも数少なくなつたが、夏のこの暑い最なかにも三々五々の物見客だけは跡を断たず、そのあいだ新しい店もできたりして二、三年前には見られなかった賑わいがあるやうな北野町の風景として定着したようである。

これらの新しい店は、いずれもが時代の先端をゆくインテリアはかくやとばかり大変頑張っておられる。昨今のブームに便乗した安直な商法の見え透かないのが何よりで、眼先の欲得よりもむしろ洗練されて洒落た店を出すことへのひたむきな雅気が読みとれて好ましい。北野町というステイタスへの自然な節度と配慮が彼らをそうさせているわけだが、結局それはながい眼でみれば賢明なことに思われる。ただ、これからはいつそう、この界限に住んでいる人々に、それも手近かに浸透する商品の品ぞろえや食事ならメニューの工夫



があつてほしい。実があつて安いということとはどんな人間にも魅力でさらにそれが洗練されていれば鬼に金棒だ。月に一度や二度の氣取った顧客を相手にしているのならともかく、そうでないならまず北野町の住人の日常と密着させていってほしい。

これからも外からやって来る人が真に魅せられるのは、他でもないそうした北野町のそれ自身が生活として息づいている新しいソフィステーションすなわち洗練度であることはどうやら本当のようである。北野町の人々がまずその文化体系を生きねばならないと思う。

親子で

二人三脚の旅

吉岡 潔

△ヨシオカ社長△



商談中の頼もしい二代目吉岡達彦さん（右）

スイス、イタリーへと初めて息子と一緒に商用の旅に出た。

大学を卒業して四年。商社に勤めていたのが昨年からヨシオカで働くようになったもので、学生時代は欧州や米国へ一カ月や二カ月気まぐれ旅に出て自由奔放のように見えていた息子であったが、今回の旅で決してその経験が無駄ではなかったように思われた。上手ではないが十分通じる英語で語学の不得手な私には有難い味方であった。

スイスでもイタリーでも街や空港、駅などで時間に余裕のある時などふっと姿が見えなくなる。あれっと思って探してみると若い外人と話し合っていたり、店でも商品について熱心に質問したりして、少しの時間でも楽しみながら有効に使っているのを見ると若さをつくづく感じたものです。

商用先でのことです。

相手の若い社員と論争をやっている様に見えたのでそっと見てみると、どちらも譲らずぶつかり合っている様子です。やがて妥協点を見つけたすまで時間をかけてやっている……日本人には大変なことですが外国人には日常茶飯事です。結局息子の方にやや軍配が上がつたのですが、話し合いがいったあとは気持よく談笑して、滞在中は三度も食事に招待されお国自

慢料理に舌づつみをうった次第です。

イタリーでは取引先の社長がわざわざホテルまで出迎えに来てくれ、車で会社へ。事業家ともなると暢気なイタリー人もものんびりはしていません。社員の先頭に立って働く姿は日本人と同様のようです。時間を十分にかけないとよい仕事ができないので、夜の十時まで仕事……ただし途中二時間の食事休みがあるのは、やはりお国柄といましようか？

食事中はというと仕事の話は全くなく、社長のご令息と息子が同い年でしかも孫も年まで一緒と、話に花が咲き親子どおしで良い交友ができたようです。ボローニャ市も案内してもらい、どこでも時間がもつとあればと残念でした。

親子でゆっくり話すという機会が少なくなっている現在、改めて今回の旅は意義深かったと思います。

今の若い人達の良さは推測で事を進めず、ちゃんと見極めて確かな答を出すということ。自分の子供だからと親バカのように思われるかもしれないが次代の若者を頼もしく見直した次第です。



吉岡潔さん

花とレーニエ大公

成瀬 香梅

〈知香流家元〉

「花」を通じて国際親善と文化交流を深める「78ヨーロッパ花の文化親善使節団」(神戸新聞、創刊八十周年、デイリースポーツ創刊三十周年記念)一行三十一名とともに五月九日より十七日間アテネ、モナコ、ニース、カンヌ、アムステルダムその他ロンドン、パリの各地を訪問してきました。

公式行事でまず最初の訪問地モナコでは、「第十一回国際花のフェスティバル」に参加。テレビ放送に出演したときには、紺碧海岸のイメージをサンゴ、パイナップル、ストレッチアなどの花材に託して海底で花が咲いたような感じ

で大作を生けて披露しました。

何といっても印象に残っているのはコンクールにモナコ国王レーニエ大公がおしりのびで自ら出品されたこと……。帽子やくず鉄などを使って海岸に打ち寄せられた感じの男性的な作品、それとピーマン、ナス、キュウリ、セロリなどのいろんな野菜を山のように積み上げた作品で、こちらの方はまるで八百屋さんの店先のように。秘書の方に大公はヒソヒソとお話になりながら盛り上げていかれ、ちょうどでき上がったころ、グレース大公妃がこれまたおしりのびで越しになり、熱心にご覧になっているのです。このとき、とても愉快なことがありました。レーニエ大公のお隣りで作品を作っていた男性が台の上に残った自分のゴミを大公とはツユ知らずにフーフとそのゴミを大公の作品の方へ吹いているのです。大公はご自分の次の作品製作に夢中でまったくお気づきにならず……。そのようすを大公妃がご覧になってクスクス。本当にほほえましい光景で、国王ご夫妻のお人柄を感じました。だ

けどご奮闘むなく、大公の作品は惜しくも賞外でしたが……。

ニースでは、ちょうど五月祭のときで町はとても賑やか。野外で四千人位の人々の前で展示花をいけましたが、このときはぶつつけ

本番の発想で、花市で買ったヤシ、フランスと日本の扇子を使い、折り紙で折ったキリンを二ひき脇に置いて四、五メートルほどの大作をいけました。カンカン照りのため、暑くて暑くて終るとたまらず木かげに逃げ込みました。カンヌでは、有名な国際映画祭にぶつかり、新聞やポスターのおかげでホールは超満員。

最後の公式訪問地アムステルダムでは嬉しいことにチューリップは現産地だけに色がとても美しくそのうえ安くて一ダースが二百五十円位。デモンストラーションでは御所車、オランダの風車、人形などを用いたところ、大変喜ばれました。やはりその国の手近なものを素材に使うということがとても喜ばれ、どこの訪問地においても同様でした。

このたびの訪問で感じましたのは、パリでもロンドンでも五年前と比べ人々の生活が質素に思えたこと。(このことはそれだけ日本人がぜいたくになった証拠かも知れませんが)それから、お花についてはヨーロッパの人々はデッサンをして組み立てる作品はとても巧みですが、そのときの情緒に合わせて繊細な感覚で作るのは難しいようです。やはりその点は日本人のいけばなに対する天賦の方が適しているのかもしれないね。



グレース大公妃と成瀬香梅(右から3番目)・香豊さん

□ある集いその足あと

甲南の會

坂野 清夫 △甲南学園理事▽

甲南幼稚園と甲南学園小、中（男女）、高等学校の同窓生と関係者の集いで、全く何んとなく食べ歩き会が始まり、メンバーは最高七三才で六十才の選歴をすぎた二十余人（平均年令六七才）である。この会は規則らしいものがなく常識と友情で万事を処理して続けられている。

毎回の集りは平均十五、六名で昔話しや、好き勝手な事をしやべりまくり、一タを過すのが楽しいのでいつも次の会合が待たれる。旧友の噂とか雑談にふけて時を忘れさせられ、阪神間特有の雰囲気があったのである。

回を重ねること八八回になり、第一回は昭和四三年十一月で、十年間に同じ店には二度は行かないで神戸の有名店を食べ歩き、時々京都大阪にも出掛ける。この十年間に店をしめたのが数店はある。会費は安くして酒代は酒をのむ男性から別勘定で割カンで徴集する七三才で最年長者の進藤次郎社長は料理の腕自慢で二回も小学校と女学校で会員にうれしい手料理を作ってくれたが、この会は外食

だけの食べ歩きだけではない、と我々の自慢である。例えば九州仕込みの水だきは朝から何時間もかけてスープを作る本式のもので、一流の料理店にも負けないおいしさであった。この他に会員の手料理は何回もあった。

女性達は長い年月を家庭で毎日の料理にウンザリらしく、会合の日には料理から逃れられるので女性の出席は非常によい。



今回は宮崎さんの結婚祝いの乾杯。（平生記念館で）

男性の社長達は多忙で当然欠席が多くなり余り欠席が続くと罰金と称して、特別上等のおいしい料理屋で会費以上の出費は負担してもらう事になっている。上等の料理屋に行けるのもこんな時であり、一同は大喜びで出掛ける。

夫婦が隣合せに坐ると一円円の罰金をとられる事になっている。全く童心に返り食べたりしゃべ

つたりの楽しい会合である。会が少し遠のくと、まだかまだかの催促である。

婦人の方が有勢で賑かであり、現代の日本及び甲南の女性優位のシンボルの様な会合である。会員は子供時代からの呼び名でお互いに呼び合い禿頭、白髪の社長も何々夫人も、何々ちゃんと呼ばれているからここでは子供の時と同じ言葉使いで後輩の学長も校長さんも子供扱いされる怖れがある。

ある店で女中さんに、何の集まりか当てて御覧と言ったら「法事の御婦りですか」と言われて我々は若い心算りでも人には老人の会合である事が思い知らされた。然し連中は自分では若い気持で集まって居りこの時ばかりは心と身体は別らしい。

本来、心と頭脳細胞は老化しないのが原則であるとするならば、我々に若さと楽しさが確かに活々として残っている。

この会に出ていると「日本人も少しはオトナになったのかな」と思う事がある。格張った見栄もなく、ただ人間としての楽しさを味っている様子は日本では珍しい阪神文化であり、神戸らしい気持の良い気風があると考ええる。

この会のために読者から神戸を中心にして良い店があったらお教え願いたいものである。

刀剣 古美術



縁頭 桜花散
目貫 獅子の図
鈐 銀地に赤心の象嵌あり
鞘 若狹塗鯉口、小尻に桜花散の金具付
¥ 5,500,000

刀 拵つき
銘 常州水戸住直江祐共造之安政六年二月吉日
特別貴重刀剣認定書付
刀渡 86.0cm (2尺8寸4分)
白鞘 故寒山先生の直刃湾れ出来見事なり雄刀愛すべしと御鞘書あり
旧所持 海軍中将東郷吉太郎閣下書護国剣とあり同刀工(祐共)
の作刀で水戸市の文化財に指定のものあり

刀 剣 元町美術
古美術

鑑定 買入 刀剣 研磨 その他工作一カ月仕上是非ご用命下さい。
お支払いに便利なローンをご利用下さい。

神戸市生田区元町通6丁目25番地

TEL 078-351-0081



鍛えぬかれたしにせの味…

ゴーフル



ほろほろと軽い2枚の洋風
せんべいに、バニラ、スト
ロベリー、チョコレートの
3色のクリームをはさんだ
爽やかな風味——
お子さまからお年寄りまで
巾広く親しまれている
風月堂の代表銘菓です。



神戸風月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎ (078) 321-5555

『天秤』の連中 〈下〉

足立 卷一 〈詩人〉

いまでは『天秤』の同人のほとんどが、何がしかの著書を持っている。詩集が多いけれど、散文の著作も少なくない。いずれにしてもそれらはたいてい『天秤』に発表された作品だ。それが補正され、練り上げられ、一冊の単行本にまとめられ、社会の共有財産になってゆくのを見るのは、うれしいものである。苦勞して『天秤』という冊子をつづけた意味があったというものだ。

最近でも、三冊の仲間の本が出る。

その一つは、宮崎修二郎の『柳田国男その原郷』である。八月、朝日新聞社の「朝日選書」の一冊として刊行される。

宮崎が柳田国男にかかわったのはかなり早い。そして昭和三十三年、神戸新聞が創刊六十周年記念事業の一つとして柳田国男の「故郷七十年」を連載した時、宮崎はその担当者だった。だから、それ以来としても満二十年ということになる。世に柳田国男についての研究や論考は多い。しかし、神崎郡福崎町の生地と柳田民俗学との関係を深く追究したものはほとんどなかったといっている。宮崎は生地を「原郷」と呼んで、この問題に取り組んできたのである。その探究の一端が『天秤』に発表されたのは、五十年十二月の第43号であった。写真を中心としたもので、五十二ページ

におよんだ。柳田が育った環境を丹念に撮影したのだが、すでに失われたところも多く、柳田民俗学に関心ある人たちに喜ばれ、称賛された。こんどの「朝日選書」は、それを基礎資料としながら柳田の原郷を克明に記録した本になるはずである。

ところで、この写真を『天秤』に一挙掲載するについては、宮崎はもとより同人一同いささか頭を痛めた。写真製版と印刷とに相当金がかかるからだ。そのとき、援助してくれたのは田辺聖子だった。ついでに言えば、田辺はもちろん『天秤』の同人ではないけれど、すでに一度寄稿したことがある。尼崎に住む同人の詩人高島健一が急死しその追悼号を出したときだった。田辺は高島と交際があり、通夜、葬式にも列してくれたが、追悼文も寄せてくれたのだ。短い文章ではあったが、ことばが生動し、高島の一面を的確にとらえ、追悼記中抜群に感銘深かった。三十九年のことで、田辺聖子は芥川賞を受ける直前に書いたものだった。その田辺のように、同人ではないけれども『天秤』を応援してくださる人は多いのである。

さて、宮崎の本と同じころ、出るはずなのが桑島玄二の『若き詩人の手記―空挺隊員竹内浩三の筑波日記―』である。これは理論社から刊行される。桑島はさきに『天秤』に連載した「戦中詩人

論」を一本にまとめて『兵士の詩』と題し、つづいて自伝的児童文学『白鳥さん』をいずれも理論社から出したがこんどの本も「筑波日記」と題して『天秤』に連載された。

竹内浩三という戦没兵が書き残した手記を校訂論考した労作である。竹内は伊勢市出身、日本大学で伊丹万作の教えを受けていた在学中、学徒出陣によって落下傘部隊に召集され、筑波山麓で猛訓練を受けたのち、フィリピン戦線に送られて消息を絶った。「筑波日記」は訓練中に上官の目を盗んで手帳に書きこまれ、フィリピンへ派遣される直前、姉に託されて残ったのである。最後の学徒兵だった桑島は、ずっと戦争における詩の問題ばかりを論述してきた。前著『兵士の詩』もそうであったし、『白鳥さん』も戦争と子どもが主題になり、わたしはこれを「近來の戦争文学の傑作ではないか」と、あるところで評したことがあ

り、いまでもその評価に変化はない。こうした一連の著作のなかで『若き詩人の手記—空挺隊員竹内浩三の筑波日記—』はその頂点をなすものである。その出版は他人事ならずうれしい。

宮崎、桑島の本と相前後して、伊田耕三の詩集『IYSEINNEとわたしの歌』が出る。伊田は『天秤』の発行名義人でもある。

伊田とは少年のころからのつきあいだ。家は新開地にあり、「バクメツ」という殺虫剤の発売元だった。県商を卒業して三菱商事にはいり、上海に派遣され、そこで恋愛結婚したのが、コノエ夫人であるが、夫人は四十七年ガンのために死去された。それ以後の伊田の悲嘆ぶりは物凄いいうはかはない。酔って語れば亡妻のことはかりだ。そうした思いをこめたのが詩集『梅』であるが、題名も夫人が梅が大好きだったことによる。そして真情につらぬかれた詩集『梅』は、詩に関心のない人たちの心をも打ったが、伊田はなおそれでもあきらまず、妻に捧げる詩を書きつづけた。『IYSEINNE』とは夫人のことである。この詩集は九月に出る。

某所の飲み屋で—1番手前の右側が桑島玄二、左側が宮崎修二郎、宮崎の向って、左から足立巻一、伊田耕三、奥村隼人、中西勝、半田透

それにつけても、つれあいに先立たれず、逃げられず、子どもに死なねければ、人生もまあまあとせねばなるまいと思う。それから、友情も女と金とがからめばこわれるということも、『天秤』のつきあいで銘記したことである。

□神戸商船大学と神戸

△終△

神戸の地に育くまれ

南 正巳

△神戸商船大学学長△

終戦直前の昭和二〇年五月と八月に隣接の川西航空機工場と共に被爆し、深江の教育施設は廃虚と化した。戦後、この焼土の中に運輸省所管の海技専門学院として残った職員・学生は極めてわずかであったが、のちに大学の二代学長になった小谷信市名誉教授の「祖国の復興は海運の復興から」の指導のもと、瓦礫の中からまず機械工場を掘り出し、全員が汗と油にまみれて整備して、以後全く手作りの教材および教室が生れてきたのであった。この物凄く復興の意気込みは当時人の心を打たずにはいなかった。

昭和二十四年。後・初代学長となる大羽真治学院長のもとに、職員・卒業生が一体となって、再教育機関を併せ持つ商船大学を設立すべく決意し、着実な運動が開始された。旧教授であり後に国務大臣・大阪府知事を務めた左藤義詮代議士が国会において口火を切って神戸商船大学の設立を政府に迫ったのである。当時は東京、京都など特別な府県を除き一県一国立大学の枠があり、有名な吉田ワマン首相の時代で、日本の国力はなお貧弱であり、加えて運輸省が大学にして文部省に移管することに対しては反対している状況下で、運動は悲惨なものであった。

二十六年二月岸田幸雄兵庫県知事、原口忠次郎神戸市長、細見達蔵県会議長、大崎一郎市会議長、宮崎彦一郎神戸商工会議所会頭が中心となり、地元県市の人々はもちろん海運関係の全国団体を網羅した神戸商船大学設立促進連盟が組織され、政府、国会に対して強力な要望が開始

された。これを受けて兵庫県出身の全衆参議院議員は連盟理事として院内で活動された。中でも神戸市選出の首藤新八代議士は、大学設立に文字通り挺身しその決断と実行力によって自民党の党議を決定させ、吉田首相の了承を取り付け、各政党の協賛を受けて議員立法による大学設立の原動力となられた。

昭和二十七年五月この伝統の地深江に新制神戸商船大学が誕生したが、以後十数年にわたり国立大学は全国的に一校の増設も見なかったことに照らして、この運動がいかに難事であり、偉大な成果であったかが理解される。本学関係者の熱意もさることながら、港都神戸に商船大学を持ちたいという地元兵庫県や神戸市の方々の理解と愛情は誠に有難く、永遠に本学の歴史に留めて、地域社会への貢献を誓っている次第である。

大羽真治初代学長は、豊橋の出身で東京商船学校を卒業後、練習船大成丸士官船長を経て東京高等商船学校教授となり、戦後海技専門学院長として神戸に赴任して来た生粋の商船教育者である。寡黙・誠実・信念の人で、創設期八年間の任期を通じて、広く学外より学者を招へいし、大学の基礎を固めた。昭和三十五年勇退するや、大学に近い西宮に居を定め、朝早く学生寮の草花の手入れに通うこと十数年に及んでいる。また全国に先がけて神戸の地に海難防止の調査研究を専門とする協会を結成し、神戸港はもちろん西日本の航路整備や港湾建設に多大の貢献をしており、神戸において海や船を語るとき忘

れがつかまえるわけでしょ。それだから一生懸命ですわね。言葉で聞くより、もつとずつと一生懸命。それを私にまになってみてね、その一生懸命に探したことの、そのいかに夢中になったかという自分ね、むしろ懐しい(笑)

——でもいつのまにか地球じゅう征服したという感じでその間にコレクターとしてはすごく発見があったでしょ田中 それは説明して教えてもらうんじゃない、自らいじってね、ハッと思うわけですね。だからその発見は非常に印象的だしね。たとえば「穴」なんてのね、切れのまん中にポコンと穴があいてますでしょ。そしてハッと思いますよね、なんでこんなところに穴があいてるのかな? ふつと見たらそれを上手にかぶってる。なあんだ、あんなるんだ、穴なんて大したもんだなあ(笑)

そういう発見の方がよくて、説明してもらって聞くことのつまらなさなんです。それだから学校の講義でみんな居眠りしてんですけど知らないところまで行ってみてごらんさい。居眠りなんかしてられますかって(笑) だから非常に感動することばかりで。いまでもやたらと感動して困るんです。みなさま、なさらないのに一人です。それから(笑) 私は大体日本で習ってなくて外国でやってますから。もちろん語学も使いますが、語学プラス自分の勘、ですね。触覚です。感動したり驚いたり、いい感覚の勉強になりましたね。あんまり言葉が上手すぎなかったことがある点ではよかったと思ってます。そんなこといったら「あの、英語がヘタなくせに」なんて笑われますけどね(笑) そういう点もありますよ。なぜ? つて、いまのことはなんですか? つて聞けるところにね。質問ということはとてもいいことですね。私はそう思ってます。大体人生なんてそういうものなんじゃないんですか。いまはやたらテレビとか、みんな教えてもらいすぎ。一年ぐらいテレビも新聞も全部ストップしちゃったからおもしろいと思うんだけど(笑) 教えずきですね。★好きな方を向いて生きてきました。

——あの分類がすごくおもしろいと思って、「穴」と

かね、これは非常に驚きの言葉ではないかと……。

田中 デザイナーが自分で作っていつてることについて、構造の頂点ですね、そういうものを見るとこれに近づかうんです。これも偶然ボンとなつちやつたんで、分類するなんていろいろ考えたもんじゃ全然ありません。どうやって服を着たかって考えると、動物殺して、肉は食べて、あとの毛皮をヒョイと身体に掛けて——掛けただけじゃダメだから巻いて——風でもきたら巻いただけじゃ飛んじやいますでしょ。だからまん中に穴あけて。首通したらもう飛んでいきやしませんよ。もう自分の所有権でしょ。だから穴は大したもんですよ。私はあんまり理屈っぽくいうのは嫌いな方だから、なんでもね。

——その辺が女性的な、特有の……。

田中 理屈にはまっつてものを見るとなんか自分で自分を狭めちゃうようで……決められたくないんですよ。奥様だけに決められたら私は生きられないし、学長さま、なんてったら生きられません(笑) デザイナーだけっていても生きられないですよ。そういうものですよ。好きな方、向いてつたらいいですよね。

——でもそれで集まったのが、よく見たら地球だった……田中 ええ集まってみたらね、ちゃんと穴だったからね(笑) マルだったからね、なってるんです。そういう物理的な面と精神的な面とちゃんと集まっていますよ。

——そういうのは非常に感動的ですね。でもやっぱり勇気がいられますね。

田中 いりますよ。勇気がある、確かに。それと熱意は。私なんかジス・イズ・パッションで、すつ飛んじやいます(笑) アドベンチャーですね、小さなね、アドベンチャー。人生のアドベンチャーなんてそんなものでしょう。——そんなふうには地球の中で「着る」っていうことをずうつとお考えになって、日本人の「着る」っていうことについてはどんなふうにか?

田中 やっぱし島国だからね。着るものもひとつの文明としてあつちからもこつちからも急に入ってきました



200人のモデル外国人と生徒たちが着る田中千代の民族衣裳が揃う庄巻の場面

ね。だけどそれがほんとうに、無差別っていうか、なんでもかんでもみんな入ったでしょう。それを選び分けもしないし、批判もないし、分類もしないし、もう無差別ですねえ。過剰ですねえ。いいことは結構なことなんですけどねえ、ただあんまり早すぎちゃって、その中からいいものをとれるはずなのに、とりそこなっちゃって。とりそこなうというか、まだそこまで自分でつかめてないんじゃないですか。そういうふうには洋服なんかでも思いますよ。洋服の歴史が浅くて、根本はどういうふうになっただけかということが浅くて、なんでも変わってればおもしろいんですから。

とくに、変わったところから大人になった人というのはその前を知らないわけです。だからつながらないんですよ。和服を着て、それから洋服が入ってきて、という歴史というものがありません。それがなくて途中から入ったわけだから、タマゴがね、鳥になるまではタマゴだってヒヨコだったわけでしょう。そのうちヒヨコを見ないで急に鳥を見ちゃったから、だからタマゴが急に飛んでったかと思うみたいな、そういう式の洋服があるわけよ。私そういうの、滑稽なのよ。滑稽っていうか、もうやめてもらいたいよ。服がかわいそうですよ。

フォーク・コスチューム（民族衣裳）の見方というのも、そういう、人間というもののね、身体もそれから心も両方守ってですね、生きていくためにね、みんなが工夫もし、苦しみもし、喜びもし、ときには神に祈ってね、したという、そういう歴史をもってきたわけですよ。

それが全然わかってないんですよ。タマゴに足がついて踊ってるみたいな（笑）そういう式の人がいるから困るんですね。

★神戸はいろんな国の生活がある街

——今度のこういうことをおやりになった、もとのスタートは神戸だったわけですね。神戸の港から出て行かれた。いま神戸については？

田中 私は神戸はあんまり好きじゃなくなりましたね。昔の方が好きよ。外人の家なんかいっぱいあって。そうしてあの人たちが、なにも特別なことしてるわけじゃなくてね、生活してましたでしょ。私も外国から帰ってきたものだから、神戸に住みついての外人なんかと偶然知り合っちゃって。それで私、そういう人たちと遊んでたんです。そういう神戸はとても楽しかったですね。神戸っていうのは外国から来たものを店に並べて、それを見せるところじゃなくなって、そこにね、もう住みついて、それでいろんな国の生活が現にそこでされてる。私は神戸はそれが好きですよ。いまのようにいろんなものが並んでいるだけじゃ意味ないですよ。生活が、前にはありましたね。港へ見送りに行ったりね、あの船のボーッと音があつて、涙こぼして別れてみたりね。それからまた船が着いたりね。そういうなんか、神戸には別れもあったし、歓迎もありましたし。昔から私は父を神戸で送り、それからまた父が帰り着き、そのたびに私は泣いたり喜んだり……ずうっと小さい時からしてきた。ほんとうに小さい時からでございましたからねえ。だから外国へ行くとか、帰ってくるのかいことはなんでもないことなのね。ただ人が変わるだけで。父や母も、兄弟もそうだし。

——先生はやっぱり偉大なるアドベンチャーね。

田中 それがやっぱり港でございましたよ。

——神戸の港から出発したファッションアドベンチャーですね。
（芦屋・田中千代学園にて）



深江の浜に位置する神戸商船大学



小谷信市第二代学長



大羽真治初代学長

れることのできない人である。

小谷信市二代学長は岡山県の産で、神戸高等商船学校を卒業するや、直ちに学校に残り深江の学園の歴史と共に生きた人で、誠実そのものの性格を持ち、清水の高等商船学校に栄転の話があった際、自ら志願してこの地に残ったとの逸話がある。六年間の任期中学園の充実に心を配り、学園創設の五十周年記念事業を計画し、前々号で紹介した海事資料館の開設も行っている。学問的には船用補助機械の体系化を試み、後進生徒に多大の指針を与えたが、先年不帰の客となられた。大学におけるその追悼会の日には、いつ果てるとも知れない参列者が続きその人徳を偲んだのであった。

先年兵庫県文化賞を受けた平勇登名誉教授は第四代学長を務めた人で、この人無かりせばこの商船大学は生れなかったであろうといわれる。若き日に大学設立運動の先兵の役を担い、東京にあって要路にその熱情をもって迫り、感服せしめた事は有名である。将来のエネルギー危機を予見して商船教育の百年にわたる歴史に転換を計って原子動力学科の創設に踏み切り、続いて大学院を設置するなど、大学行政のベテランとして大学の発展に寄与した。

一期生として昭和二十七年に入学した百二十名の学生は、他大学より移ったもの、旧制高等学校および専門学校の卒業生が非常に多く、年令の差も大きかったが、これらが新一年生として何事につけても、徹底的に討論しつつ制度や伝統を形成していくことにとめた。これが今日の本学のユニークな学生カラーを作り出すこととなった。現在は二〇〇名の学生入学定員となっているが、いずれにしても今日までの卒業生は海と船のベテランとしてではない。しかしこの卒業生は海と船のベテランとして海運、造船、港湾、倉庫、保険、検定、貿易、機器製造、石油、電力など各分野に活躍しており、国外にあって神戸の地で育まれたところを生かし国際的な立場で働いているものも多い。

□インタビュー／ミナト神戸から出発った

ファッション・アドベンチャー

田中千代さんをたづねて



「いまでもやたらと感動して困るんです」と若々しい田中千代さん

「地球は着る」と名づけて、田中千代さん（75才）が留学生時代から世界65カ国を回り、出会い集めた民族衣裳三千点の中から選んだ二百点を、巻く、穴、輪、はおる、民族の島、接点、敬う、生活の知恵、飾ると分類して紹介し、衣服の原点と自作品を三部ショー構成で、45年のデザイナー生活の集大成にまとめて、東京・大阪で発表。画家の鴨居玲さんも構成に加ったこのショーは、ほんものの凄さと人間の生命力あふれ、田中千代のライフワークのエネルギが若々しく胸を打った。大阪のショーの前日にインタビュー……。

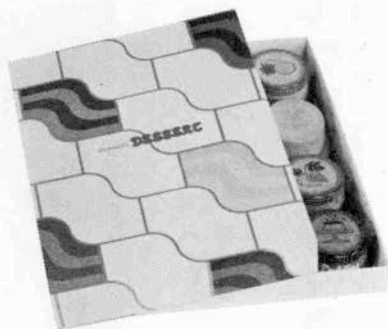
★穴は大したもんですよ。

——おめでとうございます。45年だそうですが、たくさん集まったものですね。

田中　　そうなのよ、三千点くらい。ここまできたらね、集めるというよりか、衣服の中に人間性があるんです。民族衣裳のおもしろいところはその中に人間性が入っているからよね。工夫があったり、苦しみがあったり。大変暑いところのね、それをいかにして自分の身体を守るかとかね。ほんとうに暑いとこってきたら50度くらいありますでしょ。ねえ、だから我々が暑いなんでもんじやない。もう皮がむけちゃって痛いんですけどね。そういうことがその中に見えるからおもしろくなったんです。私は自分で旅行しますでしょう。そこまで自分で行って、そして言葉が大体通じませんからね。英語なんかできなくてなんにもなりませんから（笑）。英語もフランス語もドイツ語もしゃべれないところへ行くわけですから（笑）。もう自分の目と、自分の感覚がいちばん大事ですね。そ

5℃の風

ユーハイム デザート



このマークのお店でお買い求め下さい

本店 神戸市生田区下山手通 2-31 TEL (078) 331-1694
 三宮店 神戸市生田区三宮町 3-15 TEL (078) 331-2101
 さんちか店 神戸市生田区三宮町 1-1 TEL (078) 391-3539
 西ドイツ本店 フランクフルト・アム・マイン・アム・ザルツハウス 1
 ゲーテハウス内 TEL (0611) 280262-3



東京

神戸

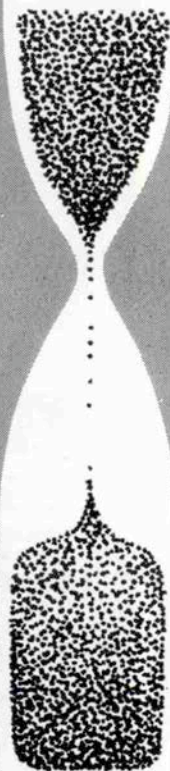
池袋バルコ店	日本橋東急店	渋谷東急店	銀座メルサ店	銀座コア店	銀座メルサ店	さんちか店	本部・仕入部
東京都豊島区南池袋一丁目二八二 (四階きもの小路)	東京都中央区日本橋通一丁目九二 (四階呉服売場)	東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一 (五階呉服売場)	東京都中央区銀座五丁目八二〇 (六階和装街)	東京都中央区銀座五丁目八二〇 (四階きものコア)	東京都中央区銀座五丁目八二〇 (四階きものコア)	神戸市生田区三宮町一丁目一	神戸市東灘区青木五丁目一五二一九
電話 〇三一九八七・〇五六一(直)	電話 〇三二二一・〇五一(代) (内線二九四)	電話 〇三二二一・〇五一(代)	電話 〇三二二一・〇五一(代)	電話 〇三二二一・〇五一(代)	電話 〇三二二一・〇五一(代)	電話 〇七八一三三二・一七〇〇	電話 〇七八一三三二・一五二九八(代)

きもの工芸

おんがら屋

★キャンペーン

国際文化都市神戸を
考える



10

ファッション都市づくりに 期待されるKFSパワー

中原 武志

〈デザインルーム・ナカハラ〉

〈KFS会長〉

米田 博司

〈神戸市総合福祉センター〉

〈KFS会員〉

伊藤 邦生

〈兵庫県商業貿易課〉

〈KFS会員〉

★五年目を迎えたKFS

— 今回は、ファッション市民大学の卒業生のグループKFS（コウベ・ファッション・ソサエティ）の方々にお集りいただきました。まず、市民大学について……。

藤本 ファッション市民大学は、他に神戸市がファッションのためにやった業績よりも、一番りっぱで有難かったですね。自分たちとは異質な部分でファッションに関わっている人たちと知り合っただけ、年齢とか職業とかに関係なく気安くつき合い、いろんな情報をうることができました。

KFSの方もできてから丸四年、今年で五年目になるのですが、先日、NHKテレビで、今、フランスの片田舎で絵を描いていらっしやる三岸節子さんが、ご自分の経験から、会というものは五年で解散したらいいとおっしゃっていました。できたときはみんなも意欲に燃えて

浦野 敏彦

〈ブテイック・メル〉

〈KFS会員〉

藤本 ハルミ

〈オートクチュール・マーガレット〉

〈KFS会員〉

大西 節子

〈大丸神戸店ジバンシイサロン〉

〈KFS会員〉

いるが、五年も続くところある特定の人のための会になり勝ちだ。だから、五年周期で解散したらいいといっているわけですね。それを聞いて、成程なあと思いました。五年目という難しい時期に差し掛かるのではないかと思ったわけです。五年というのが一番難しいときだとしたら、初心に帰るというか、初めの成り立ちのときのようにフレッシュな気持ちにみんながなって、何か思い切ったことをやるとか、今、大事な時期に掛っていると思います。三年先には博覧会が控えていることだし、そこではファッションが重要なポイントになると思いますから、このへんでKFSも新規まき直しみたいな気持ちで、必ずあの会に出たくなるという魅力あるメリットをつくるようにしたい時期じゃないかと思っています。

米田 KFSの効果ということでは、いろんな友だちができた。これは非常に有難かったです。ただ、マンネリ化はありますね。出て来る人は同じだし、やっている

こともマンネリだ。しかし、五年で解散ということには異論がありますね。違う形で続けるということを考えないといけないですね。ファッション市民大学ももう少しやり方を変えないといけないと思いますね。

芸術大学は必要だと最近思うようになりました。デザイナーというか、頭で勝負する人たちは大分いらっしやるみたいですが、実際に手を使う、いわゆる、お針子さんとか、基礎の方々がものすごく少ないですね。十年先どうなるだろうか。見習いに来る人がいないんですね。頭デッカチになっては困る。そういう意味で、技術を教える、生活が保証されて技術が習得できる学校をつくらないといけないですね。うっかりしていたら、頭デッカチになりますよ。

大西 神戸市当局が芸術大学をつくったり、そういうものに力を入れるのなら、まず、ファッション市民大学に力を入れて、そこを卒業し、社会に出たらひとつの権威があるということまで保証してくれる何かがない限り、だんだんと尻すぼみになって来るようですね。それと、基礎になる技術者の養成が本当に必要ですね。

浦野 ファッション市民大学は勉強にはなりましたが、ある意味では、受け入れ側に余裕がありすぎて、サービスピ精神がありすぎますね。本当に勉強をしたい人間が行けばいいことであって、無意味な人間が無理矢理行っても何もならないことですね。私は仕事でいつも東京へ行ってますけど、本当に叩き落とされるんですね。何とか喰いつないで、すがりついてやって行こうという活気がありますけどね。神戸にはそれがいいですね。気持ちのいい方はたくさんいらっしゃるんですが、何をするか、何を考えているのか、ファッション市民大学に何を勉強しに行くのか。本当にやる気があるのかどうかですね。行って、ただ帰るだけではあまりにも無駄な経費を使いすぎですね。もっと別な使い途があると思います。そういう人たちを毎シーズン送り出したって何の意味もないと思います。米田さんのおっしゃった縫われ

る方、ニットなら編まれる方を教えながら、いかにパランスをとってやって行くか。現実問題として考えることが必要だと思います。ですから、やる気のある人間が行けばいいことであって、たとえば受講生が三人でもいいと思うんですよ。

伊藤 ファッション市民大学については市の方にもいろいろと構想があったんでしようけれど、多分、消費者を育てて行くということで、クリエイティブな方、メーカーサイドでは決してなかったと思います。長く続けることによって、文化とか芸術をつくり出すより先に、消費者をつくり出すということが大事だという意識に立てば、また、違う見方もできると思います。プロからみたらえらい先生の話ばかり聞いて退屈かも知れないが、アマチュアからみれば、また、いい点もある。ただ、技術者の問題とか、クリエイティブなものを育てて行くとなると、ちよつとどうしようもない。芸術大学も消費者教育の一環であると思います。だから、芸術大学をつくったからすぐに何かが生まれて来るということはない。

中原 ファッション市民大学は終わった方がいいのじゃないかなという気がします。最初は、オーナーの人や第一線に立っている人が割と多勢来られて、KFSができてそれによって卒業して終ってしまうだけでなく、あとあと交流できた。ところが、最近のファッション市民大学へ来る人は会社から金を出してもらって、おまけに残業手当でまでもらっている人がいるらしいですね。行かなきゃならないから来ているという感じですね。だから、出席率はいいけれど、終ってからの有意義なつながりも少なくなってきた。さっき浦野さんから三人でもいいじゃないかという話があったが、自分の意志で金を出して、行けば何か得るところがあるのじゃないかという人より、会社からいわれているから行かなきゃならないという考え方の人が多いわけね。そういう人がたくさん集まるようなものであれば、いっそやめてしまった方がいいのじゃないかと思いますね。職人をつくる学校であ



中原武志さん

つてもいいし、もっと高度な技術を教えるところであってもいい、工科大学というか、そういう形で進んで行くのならいいのですが、今の形では終りが来ているのじゃないかという気がしますね。発展解消させて、もっと突っ込んだ専門学校的なものが欲しいですね。



米田博司さん

藤本 私はそうは思わないですね。会社が受講料を出し残業手当を出しても、それで出席率が悪いのならともかく、出席率がいいのだから、義務教育みたいな感じで、ある程度セレクトされた講師の話聞いているのだから義務的に行ったとしても、その中の何人かは話を聞いて



伊藤邦生さん

アツと思う人があると思う。私は行く人間がある限りやっただけと思う。それが、ファッションに関心のない主婦でも、来る人がある限り続けてやると、オートクチュールをやっていた私が、産業の仕組に開眼したみたい、何かに触発されて、それから考える人が出て来ると思います。専門教育をするのは別の分野で考えたい、ファッション市民大学のようなものはあってもいいと思います。

中原 ただ、受講生に金を出して行かせている企業側にファッション市民大学で即企業の役に立つことを教えて欲しいという要望が強いらしいですね。

藤本 それは、間違っていますよ。

大西 藤本先生の意見に賛成で、なくしてしまうのは淋しいですね。

藤本 また、出でからの資格というのにも要らないと思います。講義の回数にしてもいいですね。

中原 しかし、企業が金を出しているだけに発言力が強くなっているのは確かだと思いますね。そのあたりに問題がありますね。

藤本 そのへん、KFSがしっかり発言したらどうですか。

伊藤 ファッション市民大学は、啓蒙的なものだったからもう役目は済んでいると思います。ファッションが、クラフトというか、職人的なものにロッドも小さくなっているし、技術的、職人的になりつつあるし、模索期が来たなという気がしますね。

★福祉にもクリエイターが必要

米田 福祉にもクリエイターが必要ですね。今までの福祉ではダメ。それにプラス何か。クリエイターが必要です。その意味ではファッションと同じですね。

今、KFSの技術者に動いてもらって、身体障害者の衣服の改造をこれからやろうと思っています。今までにもいろんなところで試みられてはいますが、量産ができ



浦野敏彦さん

ないので、商業ベースにはのらないで失敗しています。たとえば、道路とか住居とかについては相当手がつけられているのですが、常日頃、一番身近かであるものに対しては殆んどの人が我慢しているという感じですね。それを行政面で何とか出来ないものかということで、や



藤本ハルミさん

っと、今年、わずかですが予算ができました。これはKFSが主体となってやる事業ということです。たとえば、一番よく目立つのはクルマ椅子ですが、そういう人たちのズボン。普通のズボンだとトイレに行ったときどうやってやるのかということですね。そういう人たちのたく



大西節子さん

さんのデータをとって、最大公約数的なもので数字を出して、それによって量産をする。

中原 後援はKFSになっています。

浦野 神戸に共通の夢を売る、まあ、一人のデザイナーでもいいですが、そういう人がいるか、といえば、いいですね。身障者の方も、そうでない方も、みんなが一緒に見られる、感じられる夢を売るクリエイターを育てることは本筋だと思いますね。

神戸の方はものが良すぎると思うんです。反対がないんですよ。仲が良いのはいいんですが、反対のあるところから、これまでにないものができると思うんですが。みなさんが闘いながら、力を貸すなり、また、違う所、東京やパリ、ニューヨークへ行こうといいんですよ。もともとそれぞれが行動的になって、個人が燃えて、そのかたまりがまたもうひとつ燃えるということがないと、何かもの分りがいいといえますか、首をタテに振ったり、ニコツと笑ったり、「そうですね」という返事ばかりですね。そこから一体何が生まれるか。ちよつと難しいと思いますね。納得できないのならできないということ、じゃ、どうするんだといったら、こうしますという行動で、デザイナーなら何かで表わすということです。

藤本 ファッションマンスリーの期間でも、格好のいいものを大きな会場でするだけじゃなくて、その期間にお饅頭をつくる職人さんはこれまでにつくったことのないものに挑戦してみたりする。個々のクリエイターはつくること、でしか世間に発表することがないわけでしょう。そういうものを集めることが必要ですね。それで他の町にアピールし、売れたら、見返りは市民にもありますしね。

大西 私の仕事はバリのオートクチュールのジバンシイと提携してやっていますから、あれイコール神戸につちかわれて来た洋服だともっともつと肌で感じて、神戸でしかできないという洋服をつくって行きたいですね。大阪や京都や東京から神戸に帰って来ると、ここにファッ

ションがあるんだなという気がするんですけどね。

神戸に行けば小さいけれど本物の服をつくってくれる服屋がある。靴屋がある、そういうものの集団が欲しい。

★先見の明のある人材が必要

——昭和五十六年にポートアイランドがオープンします
が、最後にボーアイについてご発言をお願いします。

中原 コンテナヤードに囲まれたファッション街区がどうなるかという危機があつて、ファッション街区として楽しめるかどうかにはあまり期待できない。ただ、非常に期待しますし、実現して欲しいと思うのは卸売機構。神戸には卸売のシステムが全然ないので、神戸のファッション産業をいくらか阻害しているのじゃないかと思えます。卸売機能を大巾に備えた何かをつくって欲しい。それは大企業のためばかりでなく、これから伸びて行く企業にも何か手助けとなるようなものであつて欲しいし、また、安くて使える会場があつて、神戸の新しいデザイナーがどんどんどこそこを利用して発表して行ける、そういう機能を備えたところと卸売機構ができれば、今までの神戸にないものだけに期待したいですね。

浦野 今は感覚的には世界に時差もありませんし、情報も発達していますので、そういう社会の流れを的確にとらえて、神戸の感覚で処理するのならないと思います。ただ単に神戸の人が神戸の感覚だけで終ってしまったらもったいないと思います。もっと広い意味で才能のある人間を採る。そうすれば、ポートアイランドであろうと博覧会であろうと、何か答えは出ると思いますね。何年か先を見て考え、提案する人が必要だと思えます。

伊藤 ハードな面でちよつと夢をいわせていただければあのガントリクレーンと貨物自動車に負けんものをつくらないかしんどうと思いますね。三つぐらい頭の中にあるんですが、ひとつは大きなショッピングセンター。神戸では今までショッピングが強かったの、あそこに、日本では他にはどこにもないという規模の大きな面白い

ショッピングセンターをつくる。もうひとつは、コロシム。闘牛は実際にはできなくても、それぐらいの規模のものをつくる。中では何でもできますね。もうひとつはこれはちよつといいにくいんですけど、県庁は兵庫県の真中の田舎へ移転してしまい、神戸市役所も思い切つてポートアイランドへ移転する。その跡地が芸術大学とか劇場に新しく生まれ変わる可能性があります。

米田 さっき中原さんがいわれた卸売機能ですが、神戸の場合、果して必要かどうか疑問をもっているわけですよ。卸売とはたくさんもつて来て、たくさん売るわけでしょう。神戸では、そういうことをした方がいいのかどうかということですね。僕は、しない方がいいという考えなんです。神戸らしいもので行くのなら。ある意味では消極的ですが、それが一番いいと思っているわけですよ。西北神に工場団地をつくつて、そこに建てたらいじやないかという話もありますが、それだったら交通の便も考えないといけないし、いろんなことを考えたら、神戸は規模は現状のまま、そして、中味をよくして行く。そうすると卸売機構も要らない。そのかわり、市役所がポートアイランドへ行く。その跡へ大学なり、文化を育てるものをつくつて欲しいですね。

藤本 商店街みたいではない、たとえば、イスキア島です。地中海の中にある島で、島の岩場とか全部が利用されて個々に非常にモダンなお店が建っている。島全体がショッピングの町になっているという、そういうものができないかと思えますね。

これからポートアイランドがつくられるのなら未来都市がつくられるようにして欲しい。便利さや商売のことばかり考えないでね。

大西 神戸の人がノスタルジイにひたるというのではないですが、そういう人間性の回復できる町づくりを、センター街、三宮、元町、山の手にしてもらつて、ポートアイランドには伊藤さんのおっしゃったような機能的な町づくりをやつて欲しいですね。

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市葺合区旗塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三
神戸市生田区三宮町1丁目17-4
センタープラザ東館8F
TEL (078) 392-2101

株式会社ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船株式会社

取締役社長 小泉 進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) プリコビル3F
TEL (078) 851-3191



だけに今後とも健康に気をつけて頑張って欲しいもの
なお8月21・22・23日の
3日間は20周年を記念して
の感謝の宵ということで食

館で『ビノ・セニョリータ
・イ・フラメンコハエル・
ヴィノ5周年の集い』が
開かれる。
「5周年といっても特別に

ら新しく打楽器奏者と美人
ギター奏者のコンビがブラ
ジルより来店の予定。
□お問い合わせは
3321-6694まで

い飲みものを楽しめる。
なお、席数が限られて
いるので予約をしておく
と安心。9月中旬まで。

キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の
企画は以上6社の提供によるものです。